

VIII. (財)日本ホスピス・緩和ケア研究 振興財団の事業活動(2004年度)

長村 文夫

(財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団)

はじめに

2003年(平成15年)度の事業は、ほぼ当初の計画通り実施することができたが、これもひとえに事業委員をはじめ各事業を現場でご担当いただいた方々のご尽力の賜物と感謝している。2004年度の事業は、当初の計画の中で「国際セミナー」が外国人講師の日程調整がつかぬため中止のやむなきにいたるなど若干の変更はあるものの、おおむね予定通り進行している。

計画された以下に述べる各事業のうち、①は調査・研究は財団設立以来継続している事業で、調査・研究の実施件数は初年度の4件から2004年度は7件に増えており、②も研究事業で、当財団の事業の柱のひとつが調査・研究として定着しているといえる。また、もうひとつの柱として⑤教育セミナー、⑥実践セミナー、⑦ホスピス・ボランティア研修、⑧⑩⑪の各研修会助成を含むセミナー・研修会を挙げることができる。④ホスピス・緩和ケアフォーラムは、地味ながら一般市民に向かってホスピス・緩和ケアの意義を訴える貴重な機会となっていると思われる。その他、この『ホスピス緩和ケア白書』刊行も定期的事業として継続できそうな感触があり、こうして振り返ると、当財団の事業活動の内容と方向性が自ずから固まってきているように思われる。

医療倫理がクローズアップされるなどホスピス・緩和ケアをとりまく社会環境が変動する中で、設立時の初心を忘れることなく、ホスピス・緩和ケアの理念をしっかりと見据えつつ事業展開を図っていきたい。

2004年度(2004年4月1日～2005年3月31日)の事業計画(一部は実施済)の概略を以下に記す。なお、本稿は2004年12月に執筆したもので、記載中の敬称は略させていただきます。

事業活動

① ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業

- ①がん患者のリンパ浮腫に対する臨床的手技の確立と普及に関する研究（継続）
 - ②緩和ケアチームで活動する看護師の役割開発（継続）
 - ③わが国における緩和ケアチームの実態調査（継続）
 - ④がん患者のスピリチュアルケアに関する研究（新規）
 - ⑤日本人遺族に応じた遺族ケアのあり方に関する研究（新規）
 - ⑥リバプール・ケア・パスウェイ日本語版の作成と評価に関する研究（新規）
 - ⑦緩和ケアのための標準カルテフォーマットの作成（新規）
- ※『調査研究報告書』（前年度の調査研究報告）刊行・配布

② ホスピス・緩和ケア専従医のための自己学習プログラム研究事業

2003年度よりの継続事業である。緩和ケア病棟の専従医の養成は、ホスピス・緩和ケア医療の水準の維持向上に不可欠であり、専従医を志す医師の自己学習に役立つプログラムの開発を研究チームに委嘱して進めている。

③『ホスピス緩和ケア白書 2005』作成配布事業

2003年度事業として『ホスピス・緩和ケア白書 2004』を刊行、緩和ケア病棟を有する病院を中心に配布したが、2004年度も引き続き刊行配布する。

④ ホスピス・緩和ケア フォーラム開催事業

ホスピス・緩和ケアについての正しい理解を、医療従事者と一般市民に深めていただくことを目指して、財団設立以来、全国14都市でフォーラムを開催してきており、本年度もこれを継続するかたちで、北上（岩手県）、松江、奈良の3都市で下記の通り開催した。

- ①北上 2004年9月4日(土) 北上市文化交流センター 参加者：約500名
講師：波多江伸子（作家・医療倫理学者）、他
- ②松江 2004年12月11日(土) くにびきメッセ 参加者：約420名
講師：沼野尚美（六甲病院緩和ケア病棟チャプレン・カウンセラー）、他
- ③奈良 2004年12月18日(土) 奈良県橿原文化会館 参加者：約300名
講師：末永和之（山口赤十字病院緩和ケア科部長）、他

⑤ ホスピス・緩和ケア教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア従事者のよりいっそう高い専門性の確立を目指して、60名程度の参加者を対象に講義とワークショップなどのプログラムで実施。2002年度よりの継続事業である。

日時：2004年11月13日(土)～14日(日) 会場：昭和大学横浜市北部病院 参加者：75名

⑥ 緩和ケア実践セミナー開催事業

2001年度に財団で作成配布した『がん緩和ケアマニュアル』を教材にして、ホスピス・緩和ケア従事者以外の一般医療従事者に緩和ケアを学ぶ機会を提供するもので、2002年度に東京で第1回を開催、2003年度は広島で開催したがいずれも好評で、他地域での開催を望む声が多いので、本年度は特に緩和ケアの地域医療への浸透も考慮し、大津市と仙台市の2地域での開催を計画している。

1) 大津市

日時：2004年12月4日(土) 9:20～16:50 会場：ピアザ淡海 参加者：約200名

[講演]

① 痛みのマネジメントのエッセンス

恒藤 暁 (大阪大学助教授)

② 痛み以外の症状マネジメントのエッセンス

志真泰夫 (筑波メディカルセンター病院診療部部長)

③ 精神的ケアのエッセンス 河瀬雅紀 (京都府立医科大学助教授)

④ 緩和ケア診療 (緩和ケアチームのアプローチ) のエッセンス

山口聖子 (順天堂大学医学部附属順天堂医院看護師長)

⑤ 日常生活の援助と家族ケアのエッセンス

田村恵子 (淀川キリスト教病院主任看護課長)

2) 仙台市

日時：2005年1月15日(土) 9:30～17:00 会場：仙台市民会館

[講演]

・進行がん患者とのコミュニケーション 保坂 隆 (東海大学教授)

[ワークショップ]

① 医師と患者とのコミュニケーション 講師：保坂 隆 (東海大学教授)

② 医療コミュニケーション 講師：町田いづみ (東京福祉大学)

③ 疼痛マネジメント 講師：志真泰夫 (筑波メディカルセンター病院診療部部長)

④ 在宅ケア—進行がん療養者の生活支援

講師：玉井照枝（岡部医院ケアマネジャー）

⑤進行がん患者のリハビリテーション

講師：安部能成（千葉県がんセンター整形外科）

⑥家族ケア 講師：秋山正子（白十字訪問看護ステーション(東京都)所長)

⑦ホスピス・ボランティア研修事業

ホスピス・緩和ケア病棟のボランティアの向上をめざして、全国病院ボランティア協会と共催で2002年度は大阪で第1回全国大会、2003年度は福岡、静岡、京都で地区研修会を開催してきており、本年度は東京で全国大会を開催。参加者318名。

日時：2004年9月26日(日) 10:00～16:00

会場：聖路加看護大学 アリス・C・セント・ジョン・メモリアルホール

午前：講演 徳永 進（野の花診療所） 午後：ワークショップ

⑧全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会（「日本ホスピス緩和ケア協会」と改称）年次大会研修会助成

2004年度全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会年次大会（本大会の会期中に会の名称は「日本ホスピス緩和ケア協会」と改称された）におけるグリーンケアに関する研修会（講演とシンポジウム）を昨年度に引き続いて助成。参加者約650名。

日時：2004年7月10日(土) 15:45～18:15

会場：福岡国際会議場

基調講演：「グリーンケアにどう関わるか」 リンダ・エスピー（オーストラリア）

シンポジウム：「家族への援助」

⑨海外（オーストラリア）短期研修留学補助事業

2002年度から継続しているプログラムで、オーストラリアのMonash大学の日本人看護師を対象とする短期研修に参加する者のうちから財団が選抜して、費用の一部を補助するプログラムで本年度は予定通り3名について助成。

⑩グリーンケア研修会助成事業

日時：2004年7月5日～8日 会場：福岡国際会議場

「グリーンケアワークショップ 2004」 講師：リンダ・エスピー 下稲葉かおり

7月5日 入門コース（参加者86名）／6～8日 中級コース（参加者26名）

⑪ホスピス市民研修会助成事業

日時：2004年11月20日～21日 10:00～16:00

会場：大阪 YMCA 会館

テーマ：「21世紀のホスピスを考えるーとくに在宅に目を向けて」

講師 柏木哲夫, 他

一般市民を対象とする2日間にわたる日本ホスピス・ホームケア協会主催の研修会を後援し、助成する。参加者44名。

⑫ APHN (Asia Pacific Hospice Palliative Care Network) 支援事業

アジア・太平洋地域のホスピス・緩和ケア活動の発展向上をめざす APHN (在シンガポール法人) の活動を支援するため、2001年度以降実施している財政的支援を継続する。

⑬ 一般広報活動事業

『財団ニュース』(2回)、ホームページ改訂、財団パンフレット改訂、事業報告書作成配布などの経常的広報活動。

⑭ 国際セミナー「ホスピス・緩和ケアの質の評価」開催事業

— 中止 —

⑮ 医学生の緩和ケア教育のための教員セミナー助成事業

財団の委嘱による研究報告「大学医学部の緩和ケア教育カリキュラムと教科書の作成と提言」を踏まえて現在作成されている教材を用いて、医学生の緩和ケア教育にあたる教員を対象とするセミナー(「大学病院の緩和ケア教育を考える会」主催)を後援し、助成する。

日時：2004年10月9日(土)～10日(日) 会場：昭和大学横浜市北部病院 参加者：44名

講師：中島宏昭(昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター教授)

白土辰子(日本大学医学部麻酔科学教室医師)

黒子幸一(秦野メディカルクリニック院長)

西田茂史(聖マリアンナ医科大学講師)

木澤義之(筑波大学大学院人間総合科学研究科助教授)

田仲 曜(東海大学医学部外科学系消化器外科医師)

高宮有介(昭和大学横浜市北部病院医師)

斎藤真理(横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター医師)

⑩「ホスピス・緩和ケアに関する意識調査」準備委員会

ホスピス・緩和ケアに関する一般市民の意識調査を実施することによって、ケア従事者が患者や家族の考え方に理解を深めるとともに、調査結果の公表によって社会のホスピス・緩和ケアへの理解を深める効果も考えられるが、調査方法や設問内容など検討すべきことが多いので、まず準備委員会を発足させて計画をつめる。

|| おわりに

2000年12月に発足した当財団の事業活動は、2004年度が実質的に第4年度ということになる。4年間の実績というのは、この期間に積み上げられた事業活動を見直し、今後の方向を検討するのに相応しい資料を提供してくれていると思う。2005年度に向かって、より良い事業活動の推進を目指して歩みを進めていきたい。